編集代表
大塚柳太郎・寺嶋 秀明

生態人類学は挑む

【全 16 巻】

SESSION 6 巻　MONOGRAPH 10 巻

1080 億人の「人間」は
地球上でいかに生きてきたのか——

人間と社会の本質を問う
人新世の羅針盤

配本間隔：隔月を目安とする
判型・姿：A5 判並製　260~340 頁
価格目安：各巻 本体 3000~3500 円程度（税別）
読者対象：大学生以上，教養

京都大学学術出版会

推薦します

●〈人間〉という概念の総点検

人新世の中のコロナ禍、そして破局を予感させる気候変動。これらの危機を克服できるかは、私たちがほんとうの意味で〈新しい日常〉を確立できるかにかかっている。以前の日常へと復帰するのではなく、真に新しい日常を創造すること。

そのために必要なのは、〈人間〉という概念の総点検である。人間とは何か。人間にはどんなポテンシャルがあるのか。人間には何ができるのか。人間の変わらぬ本質とは何か。人間にはどのような可塑性があるのか。

こうした問いにストレートに答えてくれる学問がある。生態人類学だ。自然環境の中を生きる動物としての人間とそれぞれの文化の中で特定の生活様式を営む存在としての人間、これら両面をともに視野に入れた学問だ。

大澤真幸
（社会学者）

●人間の生きざまと知恵を綴る

情報通信テクノロジーとグローバル化による世界の一元化は人間に幸福をもたらすのか。そんな問いが広がる中、確かな答えを与えてくれるのが生態人類学の視座である。50 年以上前に日本で産声を上げたこの学問は、地球の多様な自然に息づく人間の生きざまと智慧を若き研究者たちの新鮮な体験によって綴ってきた。

その蓄積は、人間が動き、集まり、対話することで作ってきた社会の本質を教えてくれる。私たちが抱える現代の混迷と未来の課題が今明らかになる。

山極寿一
京都大学名誉教授・総合地球環境学研究所所長）

●混迷する時代への羅針盤

グローバル資本主義は「人新世」を生み出し、いまや文明を破壊させるような危機的状況に直面するようになっている。さらなる経済成長と技術革新だけでは、現代の複合的危機を乗り越えることはできない。むしろ、自然と文化の相互作用に焦点をあて、人間と自然の共存・共発展の未来を描くためには、人間中心的な西欧文明で周辺化され、抑圧されてきたケア、再生産、贈与の実践から学ぶべきではないか。徹底したフィールドワークに依拠した本シリーズの研究が浮かび上がらせる多様な人間のあり方が、混迷する時代への羅針盤になるに違いない。

斎藤幸平
（経済思想家・大阪市立大学大学院経済学研究科准教授）

SESSION

1 動く・集まる

大塚柳太郎 編　本体 3200 円（税込 3520 円）2020/12

砂漠、山岳、熱帯雨林、そして海……。死を招く過酷な環境を越えてもなぜ、ヒトは「ここではない、どこかへ」向かうのか？「移動」と「定住」に焦点をあて、グローバル化し複雑になる世界の根源を探る。　ISBN:9784814003112

分担執筆者 ＝ 中村美知夫／佐藤弘明／口蔵幸雄／小野林太郎／高畑由起夫／小西祥子／末吉秀二／孫暁剛／中村香子／富田晋介

2 わける・ためる

寺嶋秀明 編　本体 3000 円（税込 3300 円）2021/7

分配から「喜び」を見出したヒトが、喜びを見失い不平等な時代を生き始めている。共に生きる喜びが芽生えるときをいまいちど振り返りたい。食べ物をめぐる根源的行為からみえる、人間社会の網の目。　ISBN:9784814003440

分担執筆者 ＝ 黒田末寿／今村薫／戸田美佳子／関野文子／木下靖子／砂野唯／飯田卓／高倉浩樹

3 病む・癒す

稲岡 司 編　本体 3400 円（税込 3740 円）2021/12

2021 年現在、疫禍に苦しむ我々の癒やしは、個人の治癒だけでなく社会の変貌をみなければならない……人類進化における「病」の本質を考察し、西洋医学の枠を超えた「癒やし」の広がりをみる。　ISBN:9784814003785

分担執筆者 ＝ 関山牧子／ Anuradha Jayaweera ／藤村美穂／米田譲／佐宗亜衣子／近藤修／花村俊吉／辻貴志／松本卓也／中井信介／服部志帆／塚原高広

4 つくる・つかう

伊谷樹一 編

大都市が吸いつくす資源を地域に保持するにはどうすればよいのか？　人はどのように自然資源の枯渇と向き合ってきたのか？　資源保全と代用物の創造から、人類のレジリエンスを考える。

分担執筆者 ＝ 安高雄治／泉直亮／大久保悟／徳岡良則／野田健太郎／牛久晴香／小坂康之／平野亮／浅田静香／多良竜太郎／近藤史／角田さら麻／神田靖範／岡村哲兵／瀧本裕士

5 関わる・認める

河合香吏 編　本体 3500 円（税込 3850 円）2022/1

ヒトとサルを交互に追いながら、親和的に、友好的に、敵対的に、競合的に「関わる」社会の共存の在り方を探求。経済合理性だけでは割り切れない関係の多様さに迫る。　ISBN:9784814003853

分担執筆者 ＝ 生駒美樹／岩田有史／川添達朗／北村光二／座馬耕一郎／田島知之／夏原和美／馬場淳／山内太郎

6 たえる・きざす

伊藤詞子 編

「絶える」＝死は逃れられない。ときに類としての絶滅も起こる。滅失から「耐える」生物そして人間の努力は新たな時代＝人新世をどう乗り越えるか？　環境と生物の消滅と生成からみる世界。

分担執筆者 ＝ 内堀基光／四方篝／佐々木綾子／藤澤奈都穂／勝俣昌也／神田靖範／伊谷樹一／風間計博／足立薫／竹ノ下祐二／竹川大介／小林誠

MONOGRAPH

1 交渉に生を賭ける

東アフリカ牧畜民の生活世界

太田 至 著　本体 3000 円（税込 3300 円）2021/2

日本人なら規則や組織の論理に従って決める問題を、彼らは「対面的な交渉」によってすべて解決する。ともに納得できる決着を実現することに，全身全霊で打ち込む人びとの社会を描き出す。　ISBN:9784814003167

2 ウェルビーイングを植える島

ソロモン諸島の「生態系ボーナス」

古澤拓郎 著　本体 3000 円（税込 3300 円）2021/4

自然への介入がそのまま森の保全になるしあわせ。だが、その幸福な連鎖はいま、途切れようとしている。グローバル化に翻弄される森の生活が、私達の社会に幸福の意味を問い返す。　ISBN:9784814003402

3 ニューギニアの森から

平等社会の生存戦略

須田一弘 著　本体 3000 円（税込 3300 円）2021/6

半遊動的生活を送るクボの人々は妬みによる呪いを怖れ、食べ物も土地も婚姻も、死ですら平準化する。「妬み」と平準化というテーマを押し広げ、生業が社会を規定するという通説を覆す。　ISBN:9784814003457

4 自給自足の生態学

ボサビの人びとのオートポイエーシス

小谷真吾 著　本体 3200 円（税込 3520 円）2021/8

なにが社会を形作っているのか、そのシステムの綾を解きほぐせば、彼らのまなざしを垣間見ることができる。「世界システム」を構想してしまった私たちが見過ごしている風景の重層性を描き出す。　ISBN:9784814003587

5 川筋の遊動民バテッ

マレー半島の熱帯林を生きる狩猟採集民

河合 文 著　本体 3200 円（税込 3520 円）2021/12

森を移動しつづけるバテッの暮らしは常に川筋にある。上流下流、のぼるくだる、山側川側、の三つの方位軸と身体感覚で織りなされる空間は、地図上の領域で世界を区切る我々がみるものとは別の風景をみせてくれる。　ISBN:9784814003747

6 バナナの足、世界を駆ける

農と食の人類学

小松かおり 著　本体 3000 円（税込 3300 円）2022/1

主食にもデザートにも酒にも薬にもほったらかしの雑草にもなるバナナが、人々の生活を映し出す。アフリカ・南米・沖縄……世界のバナナを食べ歩いた筆者がみつけた「遊び」という農の原点。　ISBN:9784814003686

7 母系社会の生態人類学

ミオンボ林をゆたかに生きる

杉山祐子 著

女たちがつくるネットワークがそのまま、離合集散を繰り返す村の構図となる。焼畑農耕に支えられた彼らの「食物の道」「敬意の道」を辿り、「妬み」を解消する仕組みを解明する。

微生物との共進化

梅崎昌裕 著

現代生物学を超える人間の可能性。パプアニューギニア高地の人びとの「低タンパク適応」から見いだされる腸内細菌との共生システムは、人類の測り知れない多様性を示している。

生業活動と子育て

ナミビア北中部クン・サンにおける子どもの社会化と養育行動

髙田 明 著

ヒト本来の「子育て」のあり方は、狩猟採集民のなかにある……その定説は本当か？　南部アフリカ・サンの子育てに密着し、遊びと模倣が社会や文化を自在に変えてゆくさまを描き出す。

記憶でつながるモンゴル世界

風戸真理 著

ふるびたゲルを立てるとき、草原の記憶が蘇る。多くが都市生活者となったいまでも物に埋め込まれた記憶が人びとをつなげる。歴史的摩擦を抱えながらも越境してつながるモンゴル世界。